

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕  
灌水期間を長くして養成したサンダーソニア塊茎の実用性

野口 貴・杉田英夫<sup>a</sup>

(島しょ農林水産総合センター八丈事業所)<sup>a</sup>現中央農業改良普及センター

-----  
【要 約】サンダーソニアの栽培において、開花後、地上部が枯れる時期まで灌水を続けることで新塊茎が肥大しやすく、その後の貯蔵性や切花品質にも特に問題は生じない。なお、植え付け後の生育はやや早まる傾向にある。  
-----

【目 的】

サンダーソニアの生産では、塊茎購入費が粗収益の半分以上を占めることから、塊茎の自家養成が期待されている。しかし、塊茎養成を主体にした栽培方法は、十分に解明されていないのが実状である。前年度、採花後から地上部が枯れる時期まで、pF2.3 以下を目安に灌水を続けて養成を行うことにより、新塊茎が大きくなることを明らかにした。一方、このようにして養成した塊茎の貯蔵性(塊茎腐敗)や、それを植え付けた際の切花品質については未検討であった。そこで、灌水期間を長くして養成した塊茎の実用性を明らかにし、サンダーソニアの安定生産を図るための資料とする。

【方 法】

灌水期間を変えて養成した塊茎(図1)を2004年12月に掘り上げ、慣行法により5 05年8月まで貯蔵し、腐敗率を調べた。次に、各塊茎を2分割して、それぞれ1~2g, 2~3g, 3~4g, 4~5gに調整区分し、05年8月23日にガラスハウス内へ定植した。9月15日以降、草丈の推移、開花輪数、切花長を調べた。施肥量は、窒素、リン酸、カリを成分量でそれぞれ1.1kg/aとした。

【成果の概要】

- 1) 5 05で8ヵ月間貯蔵した際の塊茎腐敗率は3~6.5%であったが、灌水期間との一定の関係は認められなかった(図2)。
- 2) 植え付け後の草丈に及ぼす塊茎養成時の灌水期間の影響は、分割重1~2gのものでは、ほとんど差は認められなかった。分割重2~3および3~4gでは、2.5ヵ月灌水の塊茎で草丈が高くなり、分割重4~5gでは、0.5ヵ月灌水の塊茎で低くなった(図3)。
- 3) 植え付け後の開花は、分割重3~4g, 4~5gともに、2.5ヵ月灌水の塊茎で早かった(図4)。
- 4) 各塊茎間の平均的な採花日(5輪開花日)は8日間の差があり、最も早かったのは、2.5ヵ月灌水の塊茎であった(図5)。分割重3~4gでは1.0ヵ月灌水、分割重4~5gでは2.5ヵ月灌水の塊茎において、それぞれ採花日の切花長が短い傾向にあったが、その差は有意ではなかった。
- 5) 以上の結果から、地上部が枯れる時期まで、pF2.3 以下を目安に灌水を続けて塊茎を養成した場合でも、それによって冷蔵後の腐敗率が高まることはなく、貯蔵上の問題は生じない。また、切花品質の問題もみられないことから、実用性を有する。なお、植え付け後の生育や採花日はやや早まる傾向にある。

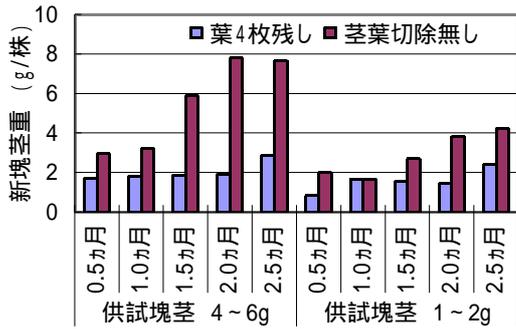


図1 灌水期間が塊茎形成に及ぼす影響  
横軸の期間は採花以後の灌水期間を表す、以下図2～5も同様(2004年7月定植・12月掘り上げ)

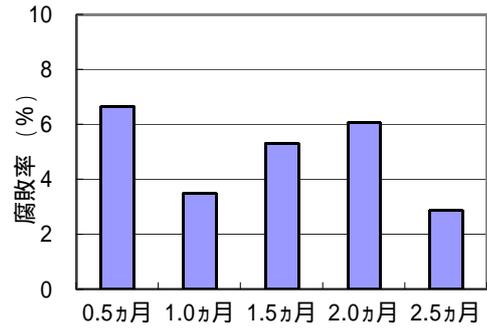


図2 灌水期間を変えて養成した塊茎の貯蔵性(塊茎腐敗率)

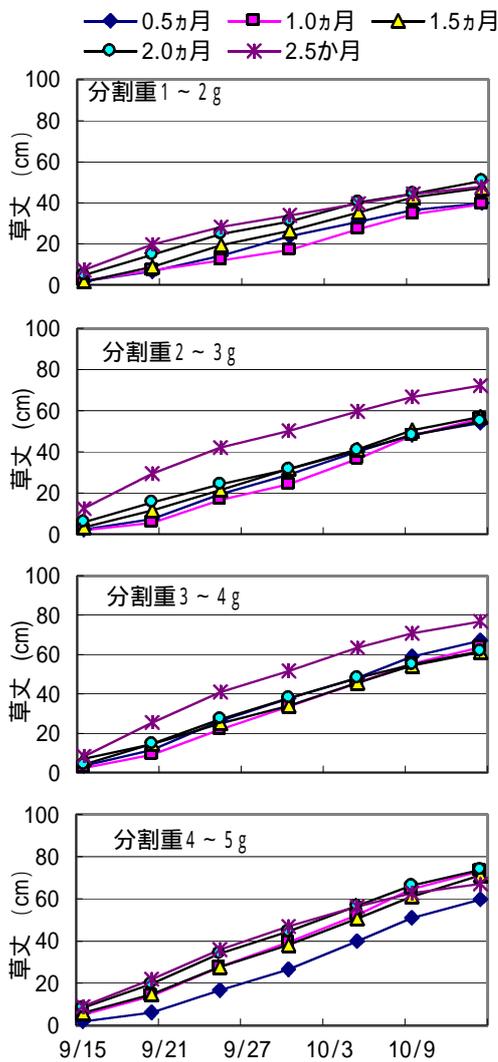


図3 灌水期間を変えて養成した塊茎による植え付け後の草丈の推移  
由来の異なる塊茎を分割し、重さ別に区分して定植

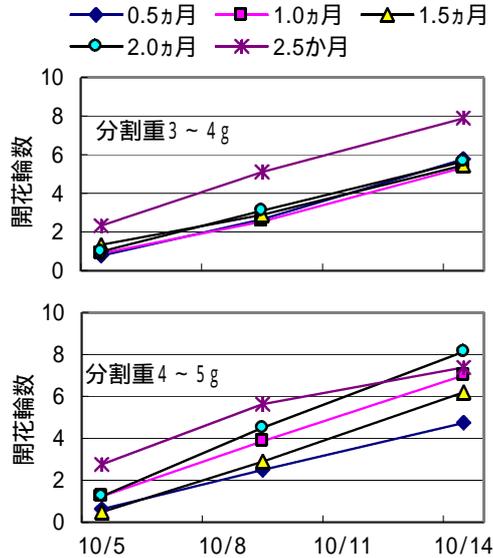


図4 灌水期間を変えて養成した塊茎による植え付け後の開花輪数の推移

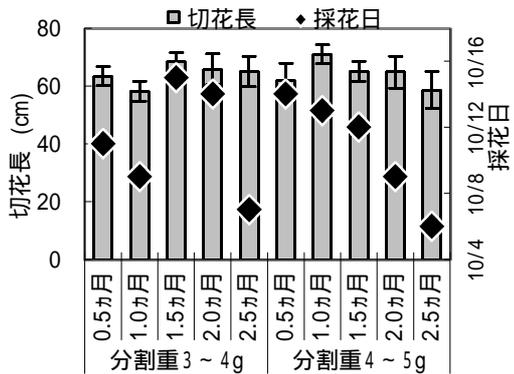


図5 灌水期間を変えて養成した塊茎による植え付け後の切花長(5輪開花時)  
塊茎重は図3と同様。切花長はM±SE(n=10)